

「星の子」の学び ～令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果から～

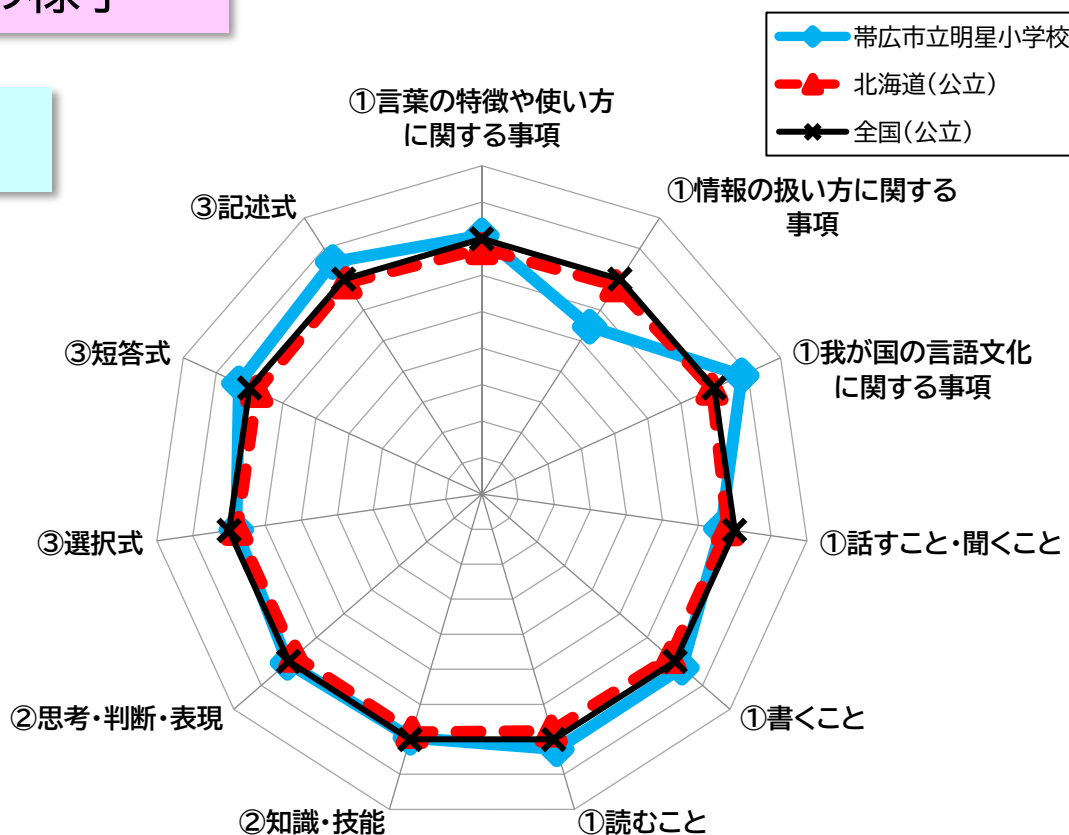
令和7年4月17日に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果をまとめたものです。

今年度は、「国語」「算数」「理科」「児童質問紙」の調査が実施されました。国語、算数、理科では、知識・技能に関する問題と活用する力をみる問題が出題されました。児童質問紙では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問に答えました。

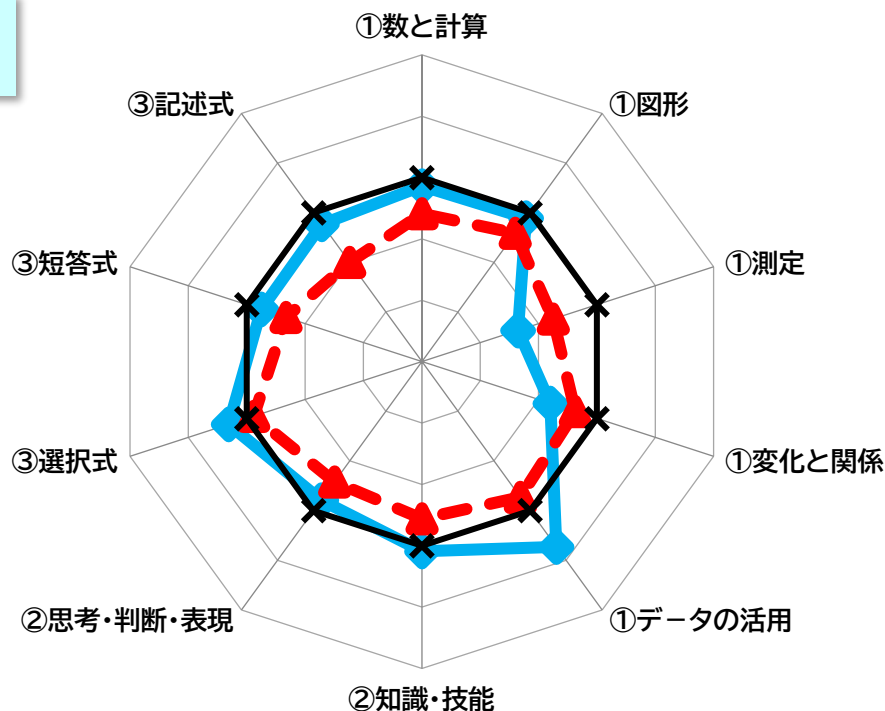
教科の様子

☆レーダーチャートの見方…全国平均正答率を100として、比較しています。

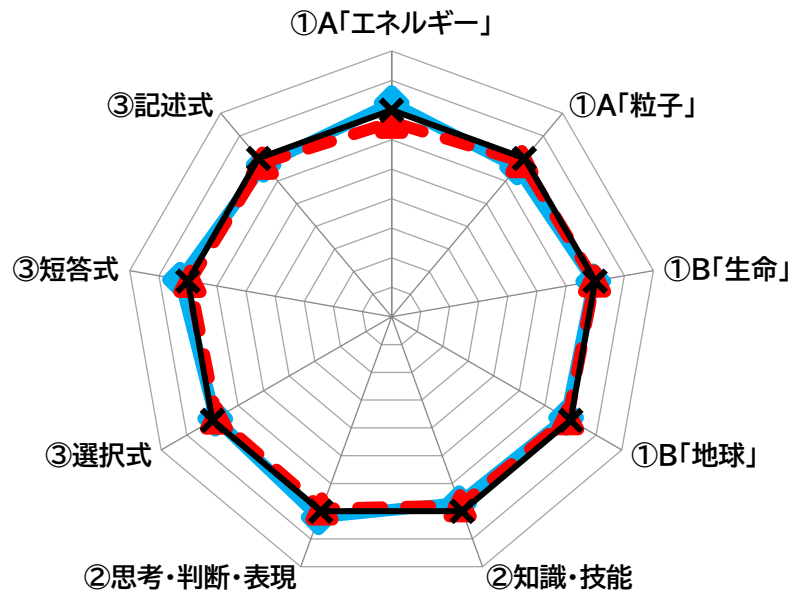
国語



算数



理科



◎国語科では、「我が国の言語文化に関する事項」において全国の平均正答率を大きく上回り、「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも全国の平均正答率を上回っています。また、「書くこと」、「読むこと」の分野において全国平均正答率を上回っています。特に、自分の考えを条件に沿った文章に表して答える「記述式」の問題で全国平均正答率を上回っています。評価の観点別では、「思考・判断・表現」で全国平均正答率を上回っています。

◎算数科では、「データの活用」の分野において全国平均正答率を上回っています。また、「数と計算」、「図形」分野ではほぼ全国並の正答率となっています。出題された問題に対し、答えの求め方や答えを導き出したわけを書く「記述式」の問題の正答率も全国並の結果となりました。また、評価の観点別では、「知識・技能」において全国平均正答率を上回っています。

◎理科では、「エネルギーを柱とする領域」において全国平均正答率を上回っています。用語などを正式な名称で記述する「短答式」で全国平均正答率を上回りました。評価の観点別では、「思考・判断・表現」において全国平均正答率を上回っています。

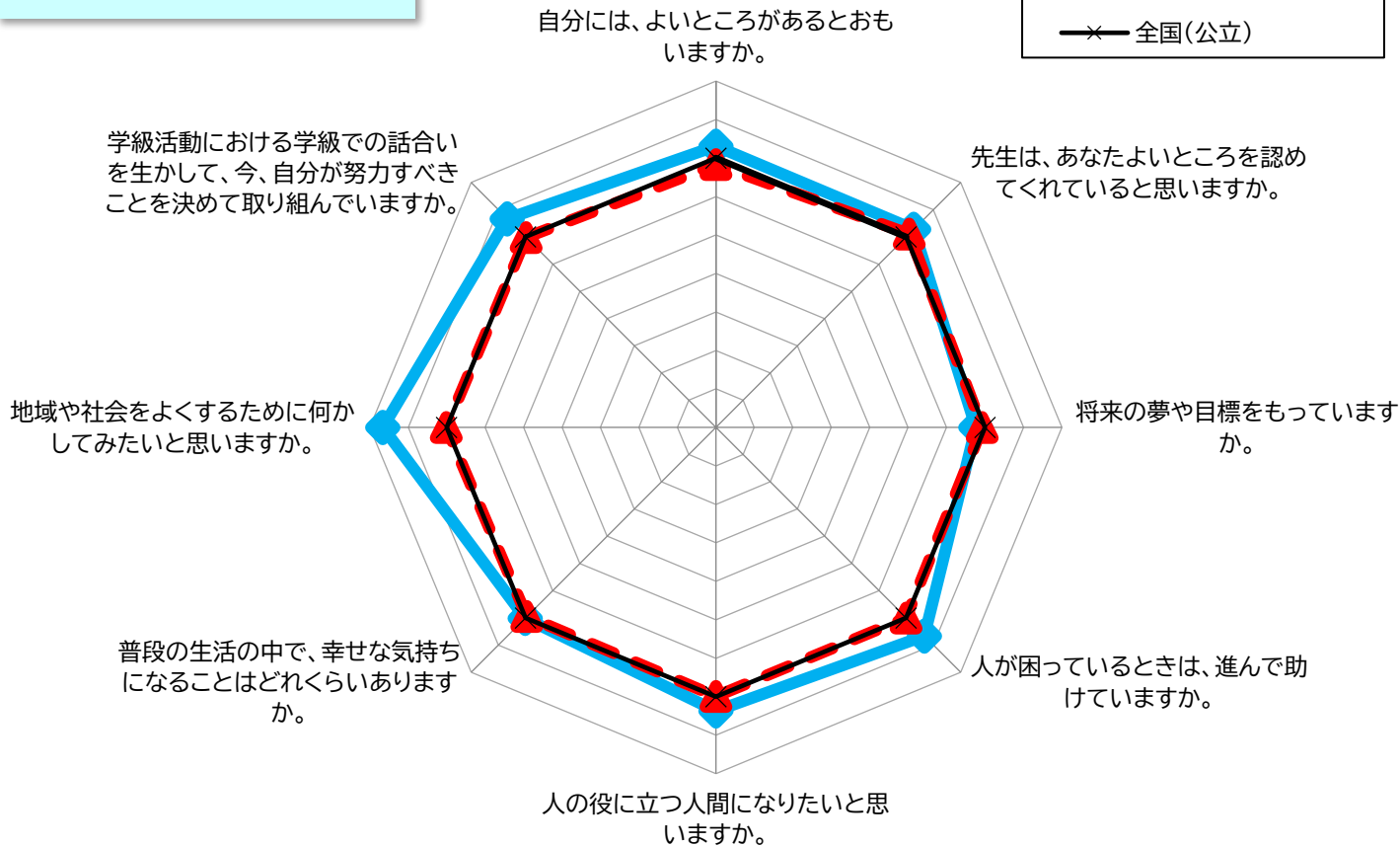
●国語科では「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるか」(話すこと・聞くこと)の問題と「情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか」(情報の扱い方に関する事項)の問題が全国・全道の平均正答率を大きく下回っていました。このことから、学校全体でも「情報の取捨選択」そして「得た情報をどのように活用し、相手に伝えるか」(協同的な学習。本校の「必要感のある交流学習」にもつながる。)について考え、低学年のうちから学習の中でさらに高めていく必要があると考えます。

●算数科では「特殊な図形(五角形)の面積を基本図形に分割して面積を求める方法を式や言葉を用いて記述できるか」(図形)の問題と「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを現すことができるかどうか(変化と関係)の問題が全国・全道の平均正答率を大きく下回っていました。どちらも「思考・判断・表現」に関する問題で「何故そのように考えることができるのか。」を説明する力が弱いと考えられます。このことから、学校全体でも「何故そう考えられるのか。」「解決する為にはどうすれば良いのか。」について「自ら考え、解決へ向かう力」、さらに考えたことを「言語化する力」(対話的で深い学び。本校の「探究する力」につながる。)を低学年のうちから高めていく必要があると考えます。

●理科では「水の結露について、温度によって水の状態が変化する」という知識を基に概念的に理解しているかどうか(粒子・地球)の問題と「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうか」(地球)の問題が全国・全道の平均正答率を大きく下回っていました。どちらも「知識・技能」に関する問題であり、ただ「覚える」だけではなく「概念的に理解しているか」が求められます。理科に限らず「知識・技能の習得」に関して、「理解」を伴う授業形態が必要であると考えます。

児童質問紙より

心の成長・充実



学習への意欲



【心の成長・充実】

◎「自分には、よいところがあるとおもいますか。」の項目において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の2つを合わせたポイント数は全国のポイント数を上回っています。

⇒日々の授業はもちろん、様々な場面で子どもたちが「周りから認められる」機会が増えているということが分かります。児童会活動による異学年交流活動や授業内における友達との交流活動、担任による意識的な働きかけなどが児童の自信へとつながり、今回の結果「自己肯定感や自己有用感の高まり」の要因となっていると考えられます。

☆引き続き児童が他者との交流を通じて自分の良さを感じられる機会をもてるよう、全校で取り組んで参ります。

◎「人が困っているときは、進んで助けていますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の3つの項目において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の2つを合わせたポイント数は全国のポイント数を上回っています。

⇒児童会活動や学級での係活動などの成功体験から「自分は多くの人に認められている。」という気持ちが高まり、「今度は自分も周りのために何かしたい。」という思いにつながっていると考えられます。

☆引き続き児童同士でお互いに高め合えるような授業での取組、児童会活動、学級での仕事などを取り入れて参ります。

◎「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」の項目において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の2つを合わせたポイント数は全国のポイント数を上回っています。

⇒担任が設定した学級活動などで、児童同士がお互いの良さを見つけることができ、自分の生活に生かそうと思える学級風土が、今回の結果の要因となっていると考えられます。

☆引き続きお互いを認め合い、よいところを伸ばしていけるような学級経営、学級風土作りに学校全体で励んでいきます。

●「将来の夢や目標をもっていますか。」の項目は、わずかに全国のポイント数を下回りました。

☆色々な職業について調べるなど「キャリア教育」を充実させ、どんな選択肢があるのかを児童自身に知ってもらえるような取組を授業の中に取り入れていければと考えています。

【学習への意欲】

◎国語、算数、理科の3教科全てで「好き」「どちらかといえば好き」を選んだ児童の割合が全国の割合を上回っています。

⇒現在校内で研究教科としている算数は、全国と比べて高い結果となりました。子どもたち自身で考え主体的に学んでいく授業の方法が、今回の結果の要因となっていると考えられます。

☆引き続き児童が主体的に学んでいけるような授業作りを学校全体で心がけていきます。

◎「学習した内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」という項目において「できている」「どちらかといえばできている」の2つを合わせたポイント数は全国のポイント数を上回っています。

⇒自分の学習を振り返る時間を授業の中で取り入れていることが、今回の高い結果の要因となっていると考えられます。また、子どもたちも自分の学びを調整する力が高まっていると考えられます。

☆引き続き、授業の最後に「振り返りの時間」を設定し、授業内容の理解を高められるよう取り組んで参ります。

◎「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」という項目において「できている」「どちらかといえばできている」の2つを合わせたポイント数は全国のポイント数を上回っています。

⇒校内の研究で進めている「交流活動」の成果が出ていると考えられます。一人ではなかなか広がらない考えも他の人の意見を聞くと広がることもあるということを子どもたちが授業中に実感することができていることが要因となっていると考えられます。

☆引き続き児童の交流する場面を大切に授業作りを学校全体で心がけていきます。